

平成28年度第1回紋別市総合教育会議録

- 1 日 時 平成28年10月26日（水）午後3時00分
- 2 場 所 紋別市役所 市長応接室
- 3 出席者 宮川 良一 市長
小林 正男 委員長
上林 善證 委員
喜多 俊晴 委員
木山 順子 委員
齋藤 房生 教育長
- 4 事務局関係 教育部長 尾形 勝己
総合戦略推進室長 徳正 修一
学務課長 小林 昌史
生涯学習課長 相澤 秀雄
博物館長兼図書館長 志子田 悟
スポーツ振興課長 大平 一也
総合戦略推進室（総括担当） 富樫 豪志
学務課庶務係 中山 広勝
- 5 協議内容 (1) 魅力ある高校づくりについて

平成28年度 第1回紋別市総合教育会議 午後3時00分開会

○宮川市長

定時になりましたので、平成28年度第1回紋別市総合教育会議を開催いたします。進行につきましては、議長の私が務めさせていただきます。

日頃、皆様には、教育行政にご尽力いただきまして、ありがとうございます。また、今日は天気の悪い中、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。平成28年度1回目の会議ということで、色々な課題について忌憚の無いご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いします。

それでは、次第に基づいて、本日の協議に入らせていただきます。

協議事項(1)魅力ある学校づくりについて事務局から説明をお願いします。

○尾形教育部長

それでは、ご説明をさせていただきます。

今日の次第の冊子が1部と、その他参考資料が1～6までございます。

まず1枚目に入ります。協議案件につきましては、魅力ある高校づくりということでございまして、この資料は平成28年9月21日の紋別高校体験入学の際に、保護者・生徒に配布したものです。この中で、紋別市から北海道紋別高等学校に対する支援として、一つ目が「学力向上支援事業」、2つ目が「部活動支援事業」、3つ目が「生活支援事業」、このような3本の支援をしていきたいと説明しております。改めてこれらのコンセプトについて説明させていただきます。次のページをお開きください。

表題の方では、紋別高等学校活性化支援事業という仮称で掲載しております。一番上の【背景・社会情勢】についてですが、市において「紋別市総合戦略」を策定しております。その中に「魅力ある高校づくり」という目標等を掲げて事業を推進しようとしているところでございます。この資料につきましては、参考資料の1番の紋別市総合戦略をご覧いただきたいと思っております。総合戦略の全般的な内容につきましては、本日出席していただいております、総合戦略室長の徳正室長よりご説明いただきたいと思っております。よろしくお願いします。

○徳正総合戦略推進室長

私の方から概略を説明させていただきます。資料1の「紋別市総合戦略」をご覧下さい。1ページ目の(1)紋別市総合戦略策定についてですが、わが国は現在、人口急減・超高齢化という大きな課題を抱えています。これに対して国は各地域がそれぞれの特徴を活かした自立的で持続的な社会を創生することを目指して、平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。これに伴い、

「人口ビジョン」「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定が努力義務とされたところでございます。

これを受けまして、本市におきましても市民代表や産業界、学識経験者、金融機関などの各分野の専門家を委員とします、「紋別市地方創生・人口減少対策市民検討会議」におきまして、検討・協議の上、昨年10月に総合戦略を策定しております。

4ページの(2)地域経済と人口減少における現状と課題をご覧ください。本市における現状と課題といたしまして、一点目の産業競争力の強化をはじめとしました、全13項目を掲げております。4ページの下段に、教育について、「高校などの活性化、地域定着の促進」という項目を課題としてあげさせていただいております。

6ページから8ページにかけて、これらの13項目の課題の解決に向けて、4つの基本目標を設定いたしました。1つ目としまして、本市の特性を活かした産業づくりと安定した雇用の創出、2つ目としまして、本市の魅力向上と発信強化による新たな人の流れの創出、3つ目としまして、若者の子どもを生き育てたいという希望の実現、4つ目としまして、個性と魅力あふれる地域作りと安心な暮らしの確保、以上4つの基本目標を設定いたしました。9ページ以降にも細かい施策はあるのですが、この施策を基に現在取組を進めているところでございます。

以上で概略の説明を終わります。

○尾形教育部長

ただいまの概略、基本目標4本立ての中から、基本目標の2番にあります項目の中で「魅力ある高校づくり」を位置づけております。総合戦略で申し上げますと、15～16ページをご覧ください。具体的な施策の内容ということで、ただいまの基本目標を実現するための取組方針を定めたものでございます。

基本目標2としまして、本市の魅力向上と発信強化による新たな人の流れの創出で、(1)移住の促進、(2)小・中学校、高校などの活性化、地元定着の促進という項目でございます。16ページでは②としまして、魅力ある高校づくりに向けた取組の促進として記載がございます。地元高校と連携し、北海道の推進する「新しいタイプの高校づくり」制度を活用し、教育課程や進路指導の充実を図るとともに、魅力ある高校づくりを進めるということの設定をしております。これらの総合戦略を受けまして、今般、本事業を定めたものでございます。

議案の次第書きに戻ります。紋別高等学校活性化支援事業の項目の【背景・社会情勢】については、ただいま総合戦略の中身により触れさせていただきました。

【実績】につきましては、奨学資金、あるいは野球部の指導派遣、高校生ボランティアの学習サポートの導入などにつきましては、後ほど資料で触れさせていた

だきます。次の【課題】の欄でございますが、ご承知のとおり紋別高校の定員は200名となっておりますが、市内中学校の卒業生の見込みが平成32年度段階では140人まで減ると推計がされていますので、定員の確保自体が難しいとされており、これらのことから地元の中学の進学率、あるいは学区内からの進学者を誘致していくことが必要であります。そこで、解決手法の選択としまして、～高校の魅力を高め、生徒に選ばれる高校づくりのために～ということで、①～③を掲げ、これらの取組を具体的に推進していきたいということでございます。

次に、【この事業の目的】【ねらい】につきましては、記載のとおりでございます。支援施策を推進することによって魅力ある高校づくりを実現したいと考えております。その具体的な内容につきましては、①対象は生徒あるいは保護者、②手段としては、教育課程において生徒が負担している経費に対して、助成等をしていくこと、③の意図としましてはこれによって生徒が、進路指導・就職指導、部活動の充実が図られる。そのことによって有意義な学校生活を送ることが出来る。もう一方で学校につきましては、未来社会の創造者の一員として活躍出来る人材の養成、あるいは、多様な才能の発掘と知識・学力に偏らない人格形成の一層の推進が図られる。このことによって、④結果になりますが、「魅力ある学校づくり」により、市内外からの生徒が入学し、定員200名を確保・維持していく事を目指し、事業を進めていきたいとしたところでございます。

現在のところ活性化支援事業の案としまして、今の3つの(1)学力向上(2)部活動支援(3)生活支援の3本柱の中で、それぞれ(1)では4本を、(2)では3本、(3)でも3本を掲げました。補習のネットゼミ、模試の受験助成、資格取得活動支援等につきましては、来年の4月からの実施を目指して調整をしております。また部活動についても、基本的に平成29年4月を目指して取り組んでいきたいと思っております。また、(3)の生活支援につきましては、家賃対策補助、バス通学経費助成等についても、4月の実施を、奨学金につきましては最後に触れさせていただきますが、給付型の制度が今審議されている最中ですので、それを見ながら検討を重ねていきたいと考えております。また、条件や総量等につきましては、予算要求にあわせて精査中でありまして、決定ということではございません。見積りににつきましては、高校からの提案を踏まえた数字・係数等に基づいて仮の試算ということで整備をさせていただいているところであります。

次に、補足資料となりますが、高校への通学等のアンケートを今年行っておりまして、市外からの通学生に対して、どのようなニーズがあるか調査をしております。483人いる生徒の内、72名に対してアンケートをさせていただいております。回答率は68%となっております。この中身でいきますと、学生寮あるいは下宿等の要望について、18名程度のニーズがあろうという結果になっております。

これらへの対応としまして、先ほどの生活支援の中で計画させていただいております。また、生徒の状況としまして、出身中学につきましては市内からの出身者が在学者 483 名中 406 名となっております。通学方法をご覧くださいますと、所要時間が 30 分から 60 分、あるいは 60 分を超える生徒は 100 人以上いるという中身となっております。また、部・外局活動につきましては、外局が 4 局 56 名、文化活動系については 6 団体 96 名、また体育系の部活動につきましては 13 団体 272 名あわせて 424 名が加入しております。加入率では 87.7% となっていることをごさいます、部活動の更なる推進を図るためにも、部活動の支援事業も三本柱の一本として今回盛り込んでおります。

参考資料の説明に入ります。参考資料の 2 番につきましては、スポーツ系、文化系 20 団体の学校ホームページの活動記録を記載しております。

参考の 3 番につきましては、既に今年度の 4 月から部活動の野球部支援ということで浅沼主事が野球部の指導・コーチにあたっております。これまでの上半期の実績等を資料にまとめております。記載のとおり、紋別高校の野球部指導については、延べ 132 回、26 回の遠征をしております。小学校の野球部指導も 5 回、中学校についても 4 回、小学校の体育授業についても 3 回行っております。このほか、試合結果等については記載のとおりとなっております。新聞についてもまとめておりますので、後ほどご覧いただきたいと思っております。

参考資料の 4 番につきましては、今回初めて行いました第 1 回紋別市小中連携ネットワーク会議についてです。今年の 8 月に第 1 回目を開催したものであります。参加につきましては小中連携ということで、紋別市内小学校の管理職および担当教諭等の集まりを想定してございまして、17 名の参加をいただきました。それぞれの中学校区の中で、小・中学校がどのような連携をとれるのかということをお話し合うものです。会議において、現在も連携はあるのですが、更に今後の取組としてどのようなことをやりたいのか、出来るのかということをお話しいただきました。紋別中学校区と潮見・渚滑中学校区それぞれの今後の取組方針を決めていただきましたので、第 2 回目としましては、2 学期が終わったあとに、それぞれの学校区で取り組んでいる実績等について、報告と意見交換を検討しているところでございまして。

参考資料の 5 につきましては、学生ボランティアということで高校生が小学生の指導をしている実績でございまして。市教委では 26 年度から夏休みパワーアップタイムというものを行ってはいますが、27 年度からは高校生のボランティアをお願いをして、補習のサポートをしていただきました。この実績が 27 年度は高校生延べ 40 名の参加をいただきました。また、これとは別に単独で南丘小学校が隣接校ということで高校生 12 名の参加をいただいて、6 日間の補習事業を実施してございまして。また今年の 28 年度は、紋別市パワーアップタイムと去年行って

いただいた南丘小学校に加えまして、潮見小学校、上渚滑小学校でも高校の生徒を学習サポーターとして補習授業に参加いただいた実績となっております。

最後に参考資料の 6 につきましては、現在の奨学金貸与状況ということでございまして、高校生につきましては月額 1 万円を 12 ヶ月貸与するということになっております。実績につきましては、多いわけではございませんが、例年 1~2 件があります。また、現在新たな所得連動型返還奨学金制度の創設について審議まとめというものがございまして、貸与型から給付型へ変えるための検討内容、そのために経済状況ですとか、育英会の資金制度の流れですとか、そういった資料を付けておりますのでご覧ください。

以上で、紋別高等学校活性化支援事業として実施をしようとしております、魅力ある高校づくりの施策につきまして説明を終わらせていただきますので、よろしく願いいたします。

○宮川市長

ただいま、事務局から説明がございましたが、参考資料ごとにご意見をいただきまして、最後に総体的な話をさせていただければと思います。

まず、紋別市総合戦略についてですが、地方創生により出来た部署で、これからそれぞれの街が持続していく為に、もう一度いろいろな部分で知恵を絞り出しながら進めていかないと、街は存続できないということでもあります。もう一度見直して自分たちの進むべき道を探るには非常によかったのではないかと思います。

それを実際に実現していくのは大変ですが、国の予算も厳しい状況の中で、地方創生を提案してもなかなか受け入れられないことが多く、やはり地域のアイデアを出していかないと、事業が採択されません。こういったことから紋別市も総合戦略室を設けて、とにかくやれるところからがむしやりにやっっていこうと、そうしないと、字面だけになってしまって終わってしまうという危機感をもって、今進めているところです。

学校教育関係の分で、特に高校の教育についてですが、この支援はまだ議会を経て予算化はまだされていないものでありますが、来年度の入試も迫ってきますので、一般質問等の中で議員さんにご理解をいただいて、まず先行して PR し、こういった支援策を持っているのだということを提案しております。

何より、高校の間口減が新聞に報道され、紋別高校はやはり西紋の中心校ですから、これ以上間口を減らすわけにはいかないという思いから、ある面では遅かったのかもしれませんが、支援策をまとめて紋別高校を守っていこうということで進めさせていただきました。

総合戦略の関係でご質問等はありませんでしょうか。

○齋藤教育長

総合戦略の文言の「魅力ある」とは、誰にとって魅力があるのかということを見ると、もちろん高校ですので生徒にとって魅力あるというのもあるでしょうし、またその後ろにいる保護者にとっても魅力がなくてはいけないし、もっと広げていえば、地域にとって、紋別市にとって「魅力ある」高校づくりというのがやはり要になると考えます。支援の三本柱が出来ましたので、具体的に進めていかなければならないですが、そのときにやはり期待しているのが相乗効果であります。生活の支援をすると、保護者・生徒が魅力を感じて紋別高校に入る。そうすると、切磋琢磨しようということが生まれて学力向上にも繋がる。3本柱がお互いに効果がある事を期待しています。もう一点、経済支援というのが一番大きいですが、市役所の中にいるいろいろな人材を紋別高校に派遣して、活性化に繋げることはできないのか、ということを探しているところです。お金の面だけで無くソフト面の支援も考えていかなければならないと思っていました。

○宮川市長

今までは高校が道立であるため、なかなか意見交換も出来ていなかったのもありますが、去年、野球部の部員数が足りず他の部から借りなければいけない状況であったことを聞き、西紋を代表する高校がその様な状況では大変だ、なんとかしなければと思いました。運良く元日本ハムファイターズの浅沼主事が指導者としてきていただけることになったので、そこから様々な支援をしていかなければならないのではないかと考えました。もちろん野球部も自信がついてきたかと思いますが、やはり高校全体がニュースの中で注目されていくことで、自分たちが通っている高校にプライドを持てるであろうし、街全体も明るくなってきていると思いますので、頑張ってもらいたいですし、他のことも支援をしていきたいと考えています。美術部も作ってもらいたいとお願いをしております。紋別中学校も潮見中学校にも美術部があるのですが、高校には無い状況です。オホーツクタワーに壁画を展示した際に中学校の先生からそういった話を聞いたので、市の職員にも教育大の美術出身者がおり、そういった人材を派遣するのも支援の一環になると考えています。そのほかにも指導者派遣を検討しているところです。部活動を支援していくことで、いろいろな面で子ども達が自信を持ってほしいと思っています。あとはやはり学力ですとか、そういった部分が小・中学校できちっとされて、みんな紋別高校に入っていけるような状況になっていくこと、さらに、札幌に出なくても希望大学を目指すことのできるような学校にしていこうことを目指して、こういった支援策をつくっております。

吹奏楽も小・中・高で連携してやっています。街の中で様々な活動をしてもらっているのありがたいことです。改めて資料を見ると、結構部活動には参加しているようなので、役所でも楽器をやっている人材もいますし、教育委員会に限らず他の部署でも時間を調

整して指導に行かせることも可能であると思います。柔軟にいろいろな人材を応援に行かせられればと思っています。

○上林委員

昨今話題になった、高校生が地元の食材を使って、全国大会に出たようなのがあったかと思うのですが、紋別は出ていませんでしたでしょうか。

○小林学務課長

札幌のマルシェに出ていたかと思います。

○上林委員

あれはクラブ活動で出ていたのでしょうか。

○尾形教育部長

総合ビジネス科の課程の中で参加していたと思います。資料の茶華道部でもお菓子を作っていたり、総合ビジネス科で地元産品を使ったお菓子を作り、商品化してグルメ祭りで販売もしております。

○上林委員

こちらから一方的に何かをするのではなく、高校生の若い力を街づくりに発揮できる科目づくりを考えても将来的にいいかもしれません。

○尾形教育部長

まちづくり推進室の方でかつて、高校生のアイデアを聞くというのをやっており、総合ビジネス科の生徒に入ってもらい、まちづくりのアイデアを出してもらったこともありました。

○上林委員

定着と、将来戻ってくることを考えると、どんどん自分の意見が街の中に取り入れられるというのは、とてもいいことだと思います。

○宮川市長

紋別市でもイケメン料理研究家の寺田真二郎氏が年に何度か来ているので、そういった人とジョイントさせることも可能だと思います。

○上林委員

商工会やいろいろな人と街全体で応援してもらえる環境作りも、そこから出てくるのでは無いでしょうか。

○齋藤教育長

やはり今は単体で物事をするのではなく、コラボで繋がって行かないと発展性が無いので、単独で出来ないものも繋がればなんとかなるものもありますね。

○喜多委員

高校の先生の人事については立ち入れない部分ではありますが、子ども達が志望校を目指せる体制を作る上では先生の指導も大切だと思います。中学校の進路指導で、成績の高い生徒には紋別高校ではなく旭川や札幌の高校を目指すよう指導がされています。子ども達の可能性を高めることは大切ですが、中学校の先生方が紋別高校に対する理解がもう少し及べば、指導も変わってくるのでは無いでしょうか。地域の学校をもり立てて、地域の人材を作っていくことに対する理解も深まると思います。

中学校と高校の先生方の交流を持つことで理解を深められるのではないのでしょうか。湧別は中高一貫教育を行っています。今までのやり方では無く、一步違った取組をしていく必要があるのではないかと思います。

絶対数として定員を割ってくることになってしまうと、外からの人をどう取り込むかという部分では、紋別市でないと学べないような特徴を将来的には出していかなければと考えます。

滝上が募集停止となる中で、滝上地区ともっと有機的な関係をつくるのが大切となります。滝上のバス停まで行ける子は、紋別高校に通うことができます。ですが、滝上のバス停まで親が送っていかなければならない子は毎日の送迎は難しいのと、定期代が下宿代と同程度になってしまい、それだったら札幌にいてももらった方が親の手はかからないという結論になってしまう。そういう部分も含めて、紋別に来てもらえる体制づくりを、支援策を含めて進めていく必要があると思います。

○齋藤教育長

魅力ある高校づくりの中で、教育課程の再編も含まれているかと思いますが、紋別高校ならではの科を編成することも将来的に考えていく必要があると思います。普通科か職業科かというような二者択一ではなく、いろいろ統合再編する様な学科の可能性もあると思う。将来的に紋別の子供達、西紋地区の子供達が、紋別高校を選ぶときにこういう科目があるから行きたいという選択の幅が広がれば魅力が増すのではないのでしょうか。

○宮川市長

工業科、あるいは商業科というのは、実際にそこに入りたくて選択するのか、学力で振り分けていくのかということがあります。現実的には学力で振り分けられているので、それをどうするかだと思います。全部普通科にして、小・中学校で学力を上げ、紋別高校に入れ、大学進学までの道程を組めるようになる必要があると思います。

○喜多委員

紋別高校は科がしっかり分かれていることに対して、そちらの方がいいという意見もある。先生の指導についても効率がいいという話も聞いています。

○齋藤教育長

現実面を考えると、今は普通科の間口は40人ですが、職業学科は20人いれば1学級を維持できます。ですが全部を普通科にしてしまうと学級数を維持するための人数的なリスクを抱えてしまうこともあります。

○宮川市長

市職員の子ども達も札幌に行っているのが多いと思われれます。結局現実を見るとそうなってしまいます。外に出すのは経済的負担も大きくなるので、本当は地元の高校に行かせたいがその部分の要望に応えられていないのだと思います。

○喜多委員

ただ、紋別高校の先生方はとても熱心で、若い先生が多いです。先生方の頑張りを認めたいが、仕組みなどで難しい面があるため、市長の言った要望に応えられていない現状にあるのではないのでしょうか。

○宮川市長

「魅力ある高校づくり」を進めるというのは、裏を返せば大きな危機感を持って取り組んでいることでもあります。

○小林委員長

今市長が危機感とおっしゃったのですが、小学校・中学校・高校がそこにあるのが当たり前で、それがずっと続くものだと思っている人がほとんどだったのではないのでしょうか。今はひしひしと危機感を感じています。人事などをこちらで変えることは出来ませんが、学力調査にも出ていた、子どもの心と親の考え方を变えることは出来ると思います。それが早道になると思うので、その上に高校に対する動きが出てくるのではないかと思います。

○喜多委員

今回の話題はすごく前進だと思います。今まで教育委員会の中で高校の議論を出来なかったが、市長を交えてこうやって問題提示をする事でスタートを切れるかと思っています。

○木山委員

子育てをしていると、高校までは家の中で子どもを育てたいという思いがあります。いずれその先は地元にはいられないので、中学卒業となる時どうするのか話が出ていました。私が高校までは紋別にいて欲しいと思うのは、今子育てをしている人も大抵そう思うのではないかと思います。15歳で手を離すよりは、18歳までは地元で育てたいと思う親が多いと思います。それを考えると、学力を紋別でつけるのは必須だと思うので、道内の国公立に挑戦できる学力を紋別でも付けていくことが外せないと思います。その一方で、野球やロボット研究部の子が目を輝かせて大会に出ている姿も大切だと思います。学力向上と、部活や子どもが興味を持つ特別な特化した取組を両輪に出来ればと思います。こういう場で高校について話し合えるというのは、今後も必要になると考えられますし、紋別市として高校の在り方の考えを持って、高校や道教委などへどんどん要求していくことが必要だと思います。こういう話し合いを続けていきたいです。

○宮川市長

進路指導で紋別高校より別の高校を目指そうと言われてしまうと、子どももそういった考えになってしまい、親もそれを尊重すると思うので紋別を出て行ってしまふことになってしまいます。

○喜多委員

紋別高校の魅力を語れるような中学校の先生になって欲しいものです。

○宮川市長

そのためには、やはり中学校と高校の先生がきちっと情報交換をして地域の子ども達を育てるということが大切になります。父兄の要望もありますし、今地域としては重要な学校であるから、今後もいろいろなことを考えて紋別高校を守っていきたいと思います。

小中連携ネットワーク会議については、これからもずっとこういう内容で続けていくのでしょうか。

○尾形教育部長

まだ始めたばかりの会議ですので、連携した事によるメリット・効果が実感できるようになるともっと別のことでも活かせるようになり、それが実践の積み重ねにつながるかと思います。

○齋藤教育長

生活指導面での連携というのは、高校と義務の学校の間では校外生活の連携協議という形であります。学びの連続性を考えると、小中高での連携を取るために、管理職同士の話し合いはこれまでもありましたが、一般の先生方との話す場が無かったので、本来行政が口を出さなくても学校間同士での話し合いの場があればいいのですが、先生方も忙しいため、義務教育と高校のジョイントを考え、まずは小中連携を進めて、一般の先生方の話し合いの場を設け、そこに高校の先生方が入っていく形を考えています。

○喜多委員

全国学力学習調査が一位の秋田県へ研修に行った際に、小学校・中学校・高校・大学を通して教科ごとにチームが有り、調査の結果を基に指導内容の話し合いの場が設けているとの話を聞きました。また、つくば市に視察に行った際には、各学校の先生がやっていることを発表という形で見せ合っているとのことでした。自分の手の内を見せることになるのでハードルは高いのですが、そこでは当たり前に行われていました。小中連携ネットワーク会議の繋がりを活かして、各学校同士の先生間の交流が図られればと思います。

○木山委員

紋別市は、管内の中では大きいからか、教員の全体会議というのは無かったのですが、他の町には結構あるので、今後必要になるかと思います。

○齋藤教育長

北見では行政も管理職も含めて市教研というものをやっています。紋別市はサークル的なものが少ないと思います。国語サークルや道徳サークルといったものがあれば、集まることの起爆剤になり、各学校の情報交換に繋がると考えます。小中連携ネットワーク会議の中でねらっているのは、管理職の交流ではありません。先生方自身が集まることに発展すればと思っています。その効果の表れか、すでにサークルができる動きがあります。初めの規模は小さいかもしれませんが、広がっていけばと思います。

小中連携ネットワーク会議のねらいは、いろいろなところと関わりを持って、視野を広くすることでもあります。それは子ども達にもいえることで、他の学校の子も達と交流することが大切です。他校の授業態度を見せることもいい刺激となると思います。

○宮川市長

続きまして、夏休みパワーアップタイムの実績について何かありますでしょうか。

○喜多委員

やっている学校とやっていない学校の違いはどこにあるのでしょうか。学力調査の結果でも、学校の先生方が自主的にやるのが大切ではないのでしょうか。教育委員会の取り組みとしては評価できると思いますが、文科省はもっと推進することを考えていると思うので、もう一步進んだ取り組みを地域全体でしていかなければならないと思います。

○上林委員

教える側として参加している高校生にとっては、どうなのでしょう。

○尾形教育部長

高校の校長先生からは、日程が合えば積極的にやりたいと言っていていただいております。高校生にとってもいい効果があるので、ぜひ続けたいとのことでした。

○齋藤教育長

ただボランティアとして参加しているのではなく、教職を目指している生徒が来ているので熱心でまじめな生徒ばかりです。ある意味の職場体験になっています。

○宮川市長

続きまして、奨学金制度につきましてはどうでしょうか。

○尾形教育部長

所得や成績などの基準等について現時点では国で審議中ですので、その結果を踏まえて市としてはどのようにカバーしていくべきかを今後検討していかなければならないものであります。今すぐに決めることは難しいので保留とし、国の方向性がはっきりするのを待ってサポートについて検討していきます。その際には、今の貸付制度もそうですが、給付型の制度を一定の条件をつけてやる必要があるのか、議論を深めていきたいと思っております。

○宮川市長

国の方では貧困の連鎖を断ち切るということでやっているが、保護世帯でもみんな進学している報告を受けており、一定程度の対応はされているとは思いますが、ただ、いろいろな家庭の経済事情で、たとえば部活に参加出来ないとか、そういう子供達への対応をどうしようかと思えます。野球にしても遠征がありますし、そういった面で参加出来ないということがあるのは、なんとかしなければいけないと思えます。

○小林学務課長

就学支援についても、来年度から市長が言われたような役割の補助をやっていきたいと考えております。

○宮川市長

来年度の高校に対する支援については、全体を通して、こういう物も必要ではないかというご発言いただければとおもいます。

滝上の高校が閉校となるので、滝上からも下宿に対する補助を出そうと考えていますよね。

○小林学務課長

滝上は募集停止となるので、今度紋別高校へ進学する生徒に対しての独自の補助を考えていると聞いております。それについては、ある一定の自己負担をいただいて、それ以外を滝上町が補助するものと聞いております。その補助しきれない部分を紋別市がどうかカバーするかは、今後滝上町と打ち合わせしていくものであります。

○喜多委員

未成年の受入を出来る施設は紋別市にはあるのでしょうか。

○小林学務課長

今現在も市外の未成年を受け入れしている下宿もあります。そこ以外にも今後話を進めていくものになるかともいます。

○宮川市長

高校との連携になりますが、それについての紹介業務などについても、市も手伝って行ければと思います。

支援策のひとつとして掲げてあるネット配信によるオン・デマンド受講経費補助というのはどういうもののでしょうか。

○尾形部長

高校にあるICT教育のパソコンルームで受講するものとなります。成績上位の生徒が受講可能で、自分のペースで講習を受けられるものです。

eラーニングの関係は、普通科の生徒全員が受けられるものです。

カリキュラムを作っているのは予備校となっております。現時点ではこの講習を受けに札幌まで行っている生徒もいるため、こういった支援を計画しております。

○宮川市長

以上で協議事項を終わりたいと思います。その他の部分で何かありましたらお願いします。

ないようですので、それでは、総合教育会議を終了いたします。ご苦勞様でした。

午後4時37分終了